港湾振興便り

2022．9

第184号

＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：

目　　次

＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：

1　ポートエッセイ　　―えだまめ―

～　日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　中原　八一　～

2　トピック

●第3回苫小牧港カーボンニュートラルポート（CNP）検討会の開催！

（北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課）

●「ザ・シンポジウムみなとin室蘭」が開催されました

（北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課）

●新潟県内初！「砂浜」を海岸保全施設として指定しました

（北陸地方整備局　港湾空港部 港湾管理課）

●「第5回 富山湾ふれあいビーチフェスティバル」が開催されました

（北陸地方整備局　伏木富山港湾事務所）

●金沢港にて「港フェスタ金沢2022」を開催しました！

（一般社団法人　金沢港振興協会）

●「たてやま海まちフェスタ2022」が開催されました！

（関東地方整備局　千葉港湾事務所）

●2022年四日市港まつり開催

（中部地方整備局　四日市港湾事務所）

（四日市港管理組合　振興課）

●3年ぶりに「第9回深日港フェスティバル」が開催されました

（近畿地方整備局　港湾空港部　港政課）

●開発保全航路「竹富南航路」の完成式典を開催しました！！

（内閣府　沖縄総合事務局　石垣港湾事務所）

●港湾議連NEWS　～港湾議員連盟が政策・予算要望～

（自民党港湾議員連盟）

3　お知らせ

◇イベント名：深日洲本ライナーの運航

＊：

1　ポートエッセイ　―えだまめ―

～　日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　中原　八一　～

＊：

酷暑の中、冷たいビールに枝豆といった定番の組み合わせで、この夏を過ごされた方が多かったと思う。

枝豆の始まりは、大豆の若さやを食べることから始まり、その後、枝豆専用の品種が栽培されるようになったことで、今日の様に私たちの食卓を楽しませてくれるようになった。

新潟では、栽培品種も多く10月の中旬まで収穫できる品種があることから、もうしばらくは晩酌のお供として楽しむことができる。

枝豆は、日本ならではの農作物と思われがちだが、我が国の2020年の出荷量51，200tに対して、輸入は71，100tと国内に出回っている枝豆の58％が輸入されたものということになる。

輸入元のトップは台湾で44％、次にタイの28％、以下、中国、インドネシア、ベトナムの順となっている。

輸入総額は約160億円である。

工業製品の場合、国土面積の大小に関わらず技術と労働力があれば、輸出国として発展することが可能であるが、農業の場合は、やはり国土面積が広いところがコスト面からも圧倒的に有利となる。

しかし、台湾の場合は、九州の80％程度の面積であるにもかかわらず、枝豆の大規模栽培を実現し、日本に年間70億円強の枝豆を輸出している。

我が国も、農林水産物・食品の輸出増加に向けて取り組みを進めており、その結果年々輸出額の増加はしているが、今後は品質のみならず大規模栽培によるコスト削減による国際競争力の強化も必要となってくる。

日本テレビの「秘密のケンミンSHOW極」で、新潟県の「枝豆事情」が紹介され、

新潟県における枝豆の作付面積は、全国1位であるということは放送でも伝えられていたが、出荷量は全国7位とベスト5にも入っていないことは伝えられていなかった。

その要因は数字で見ると、一目瞭然で、収穫量に対する出荷量の割合は、出荷量1位

の北海道は、96％、2位の群馬県が87％、全国平均が77％であることに対して、新潟県は、60％と半分近くを出荷せずに、自家消費をしていることになる。

出荷せずに、自ら食べてしまうほど美味しく、海外でも日本食ブームとヘルシー志向により、海外でも「edamame」として人気が出ている枝豆を、特に新潟市のブランドである「黒埼茶豆」を是非、県外の方々に加え、海外の方々にも食べていただきたいものである。

この港湾振興便りを通じて、各港の振興団体の皆さんからも地域の一品を紹介していただき、全国に広めることができれば、私たちの活動もより一層地域に貢献できるのではないだろうか。

＊：

2 トピック

＊：

●第3回苫小牧港カーボンニュートラルポート（CNP）検討会の開催！

（北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課）
（苫小牧港管理組合　総務部　港湾政策室）

令和4年8月4日（木）、第3回苫小牧港CNP検討会（事務局：北海道開発局・苫小牧港管理組合）を開催しました。オンライン方式にて実施し、31の関係団体、民間事業者及び関係行政機関等の皆様に参加いただきました。

検討会では、事務局より苫小牧港CNP形成計画の骨子案と方向性を提示し、構成員の皆様からご意見やコメントを頂戴しました。骨子案では、カーボンニュートラル実現に向けた苫小牧港の目指す姿や温室効果ガス排出量の削減目標等を示し、方向性では、骨子案を補足する形で現状における次世代エネルギーの需要推計の具体的な数値等を説明しました。また、構成員の皆様との意見交換では、港湾の脱炭素化や次世代エネルギーの輸送方法に関する課題等を挙げていただきました。

今後の動機として、民間企業の皆様に技術提案を求め、議論を深めつつ年度内のCNP形成計画の策定を目指して参ります。

苫小牧港管理組合HP
http://www.jptmk.com/

第3回苫小牧港カーボンニュートラルポート検討会の模様
（オンライン方式）

●「ザ・シンポジウムみなとin室蘭」が開催されました

（北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課）

令和４年９月２日（金）、「ザ・シンポジウムみなとin室蘭（同実行委員会主催、室蘭市共催）」が室蘭市民会館で開催されました。

開港１５０年を迎える室蘭港では、天然の良港と製鉄・鉄鋼業等の産業集積を活かした水素や再生可能エネルギーを活用した脱炭素化の実現に向けた取組が進められています。そこで、本シンポジウムでは「巷からはじまるカーボンニュートラル」をテーマに、室蘭市が有する産業・技術と、港湾が有するモノ・ヒトが集う拠点という機能を活かして、脱炭素化の取組を巷からまち全体に広げていくことを主題に有識者との議論を行いました。

基調講演では、国土交通省交通政策審議会港湾分科会会長で京都大学経営管理大学院の小林潔司特任教授より、「室蘭港のめざすべき未来へのアプローチ」と題した、鉄鋼業の脱炭素化のロードマップ、地域で脱炭素化政策を進めるため人々が協力し合えるプラットフォームの形成、そのためのエコシステムや人材育成の重要性についての講演がありました。

パネルディスカッションでは、室蘭市の青山剛市長、合同会社SUM-i-CAの石井裕子代表社員、北海商科大学の田村亨教授、北海道立総合研究機構の小髙咲理事長、小林潔司特任教授のパネリスト5名による議論が交わされました。

青山市長からは室蘭港の水素や洋上風力の活用に向けた取組についての情報提供があり、続いて、各パネリストより、脱炭素化の取組を身近に感じることができる基点をつくること、大学を使った地域活性化人材の育成と地域の企業・市民に知識やノウハウが育つ仕組みをつくること、消費者が自分事として脱炭素を捉えるためのインセンティブのあり方などについての議論が交わされました。

このシンポジウムには、会場１９７名、ライブ配信２７４名の合計４７１名となる多数の参加がありました。室蘭港の将来像をみなさまで共有し、それぞれ活発な取り組みとなることが期待されます。

パネルディスカッションの様子

●新潟県内初！「砂浜」を海岸保全施設として指定しました

（北陸地方整備局　港湾空港部 港湾管理課）

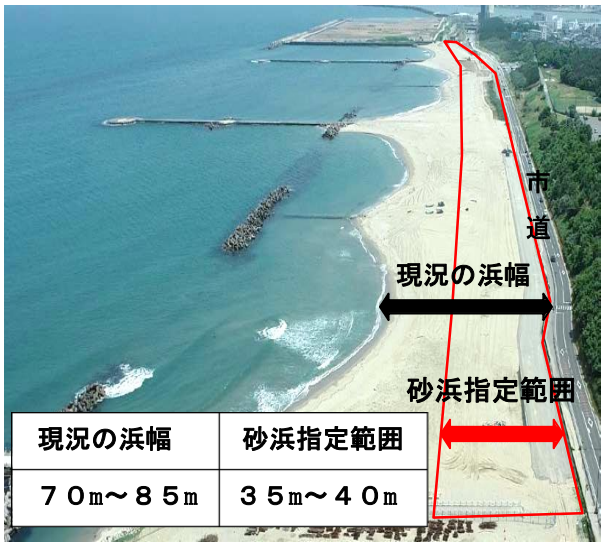
北陸地方整備局は、新潟港海岸(西海岸地区)において直轄海岸事業により養浜した「砂浜」を海岸保全施設に指定しました。(指定日：令和4年7月27日)海岸法に基づく指定は港湾局所管海岸では初の事例となります。(他部局所管海岸を含めても2例目)

新潟港海岸は、信濃川から運ばれてくる土砂量の減少により海岸線の侵食が始まり、最大350mもの後退を余儀なくされました。新潟港海岸の背後は海抜ゼロメートル地帯が広がり、侵食が進むことで、新潟市の中心部が浸水や高波による被害が想定される地域です。

北陸地方整備局は背後域を防護する国土保全を目的に、同海岸において砂浜侵食の原因となる高波のエネルギーを吸収する砂浜の整備を行いました。整備した砂浜では、地域住民の安全はもとより、かつて砂浜が豊富に形成されていた頃のにぎわいも取り戻してきています。

この美しい砂浜を海岸保全施設として位置づけ、砂浜の管理基準を明確にすることで、将来にわたり適切かつ持続的に砂浜を維持していくことが可能となり、背後地の住民の安全、安心や国土保全に寄与することができます。

※海岸保全施設：海岸法で定める護岸や離岸堤など海岸を防護する施設。



現況の浜幅	砂浜指定範囲
７０m～８５m	３５m～４０m

海岸保全施設に指定された新潟港海岸

新潟港海岸（西海岸地区）の位置

●「第5回 富山湾ふれあいビーチフェスティバル」が開催されました

（北陸地方整備局　伏木富山港湾事務所）

令和4年8月21日（日）、富山県射水市の海老江海浜公園において「第5回富山湾ふれあいビーチフェスティバル」（伏木富山港湾事務所後援）が開催されました。令和2年と3年はコロナウィルス感染拡大の影響により中止になったため3年ぶりの開催となります。今回は、新湊大橋開通10周年・海王丸パーク開園30周年記念事業の一環としても行われました。

開会式では、来賓の地元国会議員や夏野元志射水市長が祝辞を述べられ、イベントでは、ビーチクリーン作戦（海岸清掃）をはじめ、はだしで遊ぼう！キッズプレイスクール、スポーツ体験コーナー（グラスバレーボール、アルティメット）、ビーチフラッグス大会、ビーチヨガ体験などが行われました。

当日は親子連れなどの参加者で大いに盛り上がりました。

ビーチヨガ体験

キッズプレイスクール

ビーチフラッグス大会

●金沢港にて「港フェスタ金沢2022」を開催しました！

（一般社団法人　金沢港振興協会）

令和4年7月16日（土）、金沢港クルーズターミナル（愛称：ひゃくまんごくマリンテラス）を中心とするベイエリアにおいて、「港フェスタ金沢2022」を開催しました。

「港フェスタ金沢」は、港への理解促進や賑わい創出を図るため、例年「海の日」にちなんで開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により昨年、一昨年は中止となり、今回3年ぶりに開催することができました。

当日は、感染防止対策を徹底して講じる中、海上保安庁巡視船の一般公開や国土交通省所有船による港内見学、周辺施設を巡るバスツアー、地元の子どもたちによるダンスやマーチングバンドなどの多彩なイベントが行われたほか、海事関係官署のパネル展示コーナーや、みなとオアシス金沢港PRコーナーが設けられました。

また、「2022コマツ金沢工場フェスタ」も金沢港クルーズターミナル特設会場において同時開催されました。

金沢港クルーズターミナルが開館してから初めての開催ということもあり、1万3千人もの来場者で賑わいました。

大勢の来場者で賑わうステージ前

地元の子供たちによる演奏

みなとオアシス金沢港PRコーナー

●「たてやま海まちフェスタ2022」が開催されました！

（関東地方整備局　千葉港湾事務所）

令和4年7月18日（月）、みなとオアシス“渚の駅”たてやま及び館山港において「たてやま海まちフェスタ2022」が開催されました。

「たてやま海まちフェスタ」は、海や船に親しみ、海の魅力を満喫してもらうイベントとして、毎年7月下旬に開催していますが、昨年、一昨年と新型コロナウイルスの感染拡大により中止となったため、今年は3年ぶりの開催となりました。

イベントでは、シーカヤックや小型ヨットなどの乗船体験やウミホタルの観察会、海中観光船の運航など様々なアトラクションが行われました。当事務所でも海洋環境整備事業のパネル展示や、当事務所所有の清掃兼油回収船「べいくりん」の甲板部見学会を実施しました。

密を避けるため10名ずつ船上へご案内するなど、新型コロナウイルスの感染対策を徹底しての実施となりましたが、約150名の方が訪れ、就役したばかりの新型「べいくりん」の性能、特に海上の浮遊ゴミをすくい取るスキッパーが動く様子に驚かれていました。また、東京湾での「べいくりん」の活動や海洋環境整備事業についてご理解や応援の言葉をいただきました。

甲板部見学会の様子

スキッパーの説明の様子

●2022年四日市港まつり開催

（中部地方整備局　四日市港湾事務所）
（四日市港管理組合　振興課）

令和4年8月7日（日）、四日市港四日市地区において、「四日市港まつり」が開催されました。
四日市港まつりは、開港記念日である8月4日に最も近い8月の第一日曜日に開催する、船や港に親しんでいただけるイベントです。当日は天候にも恵まれ、大変暑い日となりましたが、約1万人の来場者に参加いただきました。

新型コロナの影響により、今回3年ぶりの開催となりましたが、「モノ、ヒトが集まる四日市港」をテーマに、「第33回カッターレース」をはじめ、「海上パレード」、「はたらく船コーナー」、「港まつりマルシェ」、「展示・PRイベント」等、人と港の大切なつながりを改めて感じていただけたように思います。
今回、新型コロナ禍の影響で、来場者の方にはマスクの着用のお願い、ソーシャルディスタンスの確保等、様々なご不便をおかけしましたが、マスクの下からでも伝わる笑顔がとても印象的でした。「また来年も開催してほしい」との声を多数頂きました。

カッターレース

会場の様子

会場放水

作業船展示

●3年ぶりに「第9回深日港フェスティバル」が開催されました

（近畿地方整備局　港湾空港部　港政課）

令和4年7月3日（日）、大阪府南部に位置する岬町の深日港周辺において「第9回深日港フェスティバル」が開催されました。このイベントは深日港の持つ魅力を住民はじめ多くの方々に知っていただくとともに、地域の活性化への起爆剤として平成24年から開催されていましたが、ここ2年は新型コロナウイルスの影響により中止されており、実に3年ぶりの開催となりました。

今年は、泉州地域や淡路島の特産品の販売や飲食ブースの出店、地元団体のステージイベントや観光船による大阪湾ミニクルーズが行われ、近畿地方整備局も大阪港湾・空港整備事務所と和歌山港湾事務所からブースを出展し、みなとに関するクイズや海洋環境整備船の模型展示などでPRを行いました。

深日港では兵庫県洲本市の洲本港との間で「深日洲本ライナー」の運航が令和4年6月25日から開始されており、観光船とのこの日限りのコラボレーションも見られました。

クルーズ船の横を通過する深日洲本ライナー

「港博士」をめざしてクイズに挑戦！

●開発保全航路「竹富南航路」の完成式典を開催しました！！

（内閣府　沖縄総合事務局　石垣港湾事務所）

竹富南航路は、八重山諸島の中心である石垣島と竹富町の各離島を結ぶ、石西礁湖（せきせいしょうこ）のサンゴ礁海域に位置する開発保全航路で、八重山地域の生活および観光を支える社会基盤として重要な役割を担っておりますが、航路拡張以前は浅瀬が多く点在し住民生活の大きな支障となっておりました。

石垣港湾事務所では、各島からの通勤・通学等利便性の向上、観光客も含めた安心・安全の向上を図るため、平成23年度に事業着手し、拡張工事を行ってきました。

令和3年度末に工事が完了したことから、令和4年7月31日（日）にユーグレナ石垣港離島ターミナルにて西銘前内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）や国会議員、首長等のご臨席の下、完成式典を挙行しました。併せて石垣港湾事務所所属の新業務艇「せきせい」のお披露目も行いました。

今後は本航路を適切に管理し、船舶の安全な航行を支援するとともに、本航路が八重山地域の発展に寄与することが期待されます。

【航路概要】

水深3m～4m

航路幅55m～70m

来賓祝辞の様子

港湾業務艇「せきせい」のお披露目と石垣海保巡視船「みずき」の放水セレモ

●港湾議連NEWS　～港湾議員連盟が政策・予算要望～

（自民党港湾議員連盟）

本年５月１８日（水）、自由民主党港湾議員連盟総会が開催され、千葉県船橋市長、福井県敦賀市長、兵庫県姫路市長からの意見発表を伺ったのち、討議を行いました。

また、政府による骨太方針策定をにらんだ決議を行い、同日に財務省主計局、党政調会長を訪問し、港湾政策・予算にかかる緊急要望活動を実施しました。

先生方のご尽力のおかげをもちまして、6月7日に閣議決定された「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」、「経済財政運営と改革の基本方針2022」に、重要な港湾政策がしっかりと記載されました。

【森山会長挨拶概要】

先日、来年度予算に向けた骨子の大綱が示されたところ。新しい資本主義に向けた対応や、生産性を高める資本整備などが柱になっていると理解しているが、引き続き国際コンテナ戦略港湾や地域の基幹産業を支える整備、港湾における脱炭素化の取り組みなどを踏まえたものにしてもらわなければならない。

毎年要望しているところでもあるが、港湾の整備は一つのプロジェクトをとっても、効果を発揮するまでに長い年月がかかるという特性がある。毎年毎年、しっかりと陳情を続けていくということが大事なことだと理解している。

また、本日は全国の自治体を代表して、敦賀、姫路、船橋の市長様にお越しいただいている。大変お忙しい中ご出席いただき感謝。

３市長様の地元での取り組みを伺いながら、来年度予算要求に向けて、議論のスタートを切らせていただきたいと思うので、よろしくお願い申し上げる。

＜経済を支え脱炭素社会を実現する港湾整備・振興に関する緊急要望＞

1. 経済好循環の加速・拡大を促進するサプライチェーンの強靭化
2. 2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた港湾・臨海部の脱炭素化
3. 港湾・海岸の防災・減災、国土強靭化の加速化
4. 豊かで活力ある地方創りと分散型の国創りを支える港湾の整備・振興
5. 港湾の整備・振興に携わる地方整備局等の充実強化

【財務省要望(令和４年５月１８日)に駆けつけて頂いた先生】

青木一彦、石原正敬、伊藤忠彦、井林辰憲、梶山弘志、國場幸之助、後藤田正純、関芳弘、長坂康正、西村明宏、根本幸典、藤井比早之、藤丸敏、古川康、本田太郎、松本剛明、宮内秀樹、森山裕、盛山正仁、吉川ゆうみ（総勢20名　五十音順・敬称略）

【政調会長要望(令和４年５月１８日)に駆けつけて頂いた先生】

石原正敬、伊藤忠彦、今枝宗一郎、北村誠吾、北村経夫、髙鳥修一、西村明宏、根本幸典、藤井比早之、藤丸敏、本田太郎、松本剛明、宮内秀樹、森山裕、盛山正仁（総勢15名　五十音順・敬称略）

＊：

３　お知らせ（みなとのイベント情報）

＊：

◇イベント名：深日洲本ライナーの運航

【運航日時】令和4年6月25日～11月27日の土日祝日

【場　　所】兵庫県洲本市～大阪府岬町

【概　　要】土日祝日限定で深日港と洲本港を結ぶ「深日洲本ライナー」を1日4往復運航します。
スポーツサイクルを持ち込めますのでサイクリングにも最適です。

【U　R　L】https://fuke-sumotoliner.com/

＊：＊：＊：　本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先　：＊：＊：＊＊：＊：＊：

日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002　港区愛宕1-3-4
TEL：03-5776-0630、FAX：03-5776-0631
e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：＊